



にしじ

退任のご挨拶

..... P2~6

3

MARCH 2018 Vol.149

吉川清志病院長	P2
山下元司副院長、栄養局長兼こころのサポートセンター長	P3
西岡豊副院長	P4
西川智彦医療技術局長	P5
宮本典文薬剤局長	P6
地域連携病院のご紹介 Vol.97 医療法人仁栄会 島津病院	P7
高知医療センター イベント情報	P8



Thank you for everything
Good luck on your new journey

今月末で高知医療センターを“卒業”する方々。左上より右回りに、山下元司副院長、吉川清志病院長、西岡豊副院長、西川智彦医療技術局長、宮本典文薬剤局長。

高知医療センターの理念 — 医療の主人公は患者さん —

退任の



病院長 吉川 清志

2015(平成27)年4月に病院長に就任して早くも3年が経過しました。

私は岡山県倉敷市の出身で1976(昭和51)年に岡山大学医学部を卒業し、1977年から4年間高知県立中央病院小児科、その後岡山大学で研究、1989(平成1)年から現在まで高知県立中央病院・高知医療センターに勤務し、合計33年間丁度人生の半分を高知県で過ごしました。高知県の患者さん・地域の医療機関の先生方・職員の皆さまをはじめ多くの方々、私を受け入れ支援して下さいました。長い間本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

病院長就任後はCCU改修、がんサポートセンター新築(PET-CT、高精度放射線治療装置導入)、患者支援センター新設を行いました。平成27年5月には尾崎高知県知事、岡崎高知市長を迎えて開院10周年記念式典を行い、その時に植樹した紅・白・桃梅が毎年花を咲かせています。大きな改革はできていませんが、地域の医療機関の皆さま及び職員の協力により紹介・新規入院患者数増、在院日数短縮、入院外来診療単価増、薬剤や診療材料費縮減、診療報酬査定率低減などの改善がなされつつあります。今後も基本目標である「医療の質の向上」「患者サービスの向上」「病院経営の効率化」を推進しなければなりません。

高知医療センターでは、多数の医師(2018.1.1現在、職員136名、専修医17名、研修医25名、計178名)がそれぞれの専門性を活かして熱心に診療しています。さらに4月から新たに医師、新専門医制度専攻医、初期研修医も加

わります。また看護師などコメディカルスタッフも学びを継続し専門・認定看護師をはじめ多種の資格を獲得しています。そして6つのセンター(救命救急センター、循環器病センター、がんセンター、総合周産期母子医療センター、こころのサポートセンター、地域医療センター)を中心にチーム医療による高度で良質な医療を提供し、へき地医療拠点病院、第1・2種感染症指定医療機関、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院として、地域と連携しながら公立病院の役割を着実に果たしています。その結果、2017年度は全国のDPCⅡ群病院(大学病院と同程度の140病院)の中で機能評価係数Ⅱは3位と高評価でした。加えて、ボランティア、高知県立大学・高知学園短期大学との包括的連携、学会、講演会等の講師、災害その他の研修会開催など多くの活動をしています。私たちが常に目指しているのは理念である「医療の主人公は患者さん」です。

組織の運営には人・物・金・情報が重要と言われますが、その中で一番大切なものは人です。医療を取り巻く環境は厳しさを増していますが、働き方改革、ワークライフバランスなども考慮しながら職員全員が協力して働きやすい・やりがいのある職場にしていくことが重要です。一人ひとりがそれぞれの持ち場で役目を果たし、人が集まり成長し県民市民に信頼される高知医療センターであり続けなければなりません。

関係の方々にはこれまで同様に高知医療センターにご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

副院長・栄養局長 こころのサポートセンター長 山下 元司



この度、高知医療センター副院長を退任することになりました。高度医療を追求する立派な病院で、曲がりなりにも6年間で勤められたことに安堵しています。

私が高知医療センターに赴任したのは、平成24年から、こころのサポートセンター長として身体合併症を持った精神障害者を高知医療センター精神科で受け入れて治療することでした。しかし2人の医師の退職により1年で挫折してしまいました。それ以来そうした患者は、当院の身体科に入院して、治療を受けています。私はその病室まで行って必要な精神科治療を行なっています。成人精神科の入院病床でなくても、優秀な看護師をはじめとしたメディカルスタッフがいれば、大部分の身体合併症の治療はできることがわかりました。

児童精神科は少ない精神科医師のもと、6年間今日まで維持できており、スタッフの努力に感謝するところです。とくに子どもの自殺予防には大変貢献しています。

短い間でしたが、栄養局長も務めました。給食業務は委託ですが、構造的な人手不足と、国中を巻き込んだ超過勤務問題があり、給食業務に大きな困難を生じました。給食の仕事量を減らすには冷凍食品を使えば良いのですが、開院以来のクックチルの評判が悪いために冷凍食品を減らしたあとであり、元には戻せません。給食業務はおいしいものを

手早く提供することと、間違いがなく安全、清潔、多種多様な食事を提供する必要がある、人手不足のなかでは良い解決法が見つかりません。

当院では管理栄養士を病棟に配置することと、隣の県立大学との相互交流を行ってきました。この2つは、国内でも実行できている施設が少ないようで、今でも見学者が遠くから訪れます。実践しつつ、学会発表をする、論文を書くことは病院の質を高めるために大事なことだと実感します。

医の倫理委員会委員長は難しい仕事でした。高度急性期の病院で輸血をしない治療をするのはそれなりに難しいのですが、当院では絶対的無輸血を方針としてきました。医学的治療は患者の意思が第一なので、これがずっと続くかと思われました。しかし現場からの反対も多いので調べてみると、輸血をしなかった病院が遺族から訴えられて損害賠償が認められた例もありました。長い議論の末、相対的無輸血に変更になりました。

いろいろな出来事がありながら、患者さんから育ててもらったことを感謝します。素晴らしい同僚たちと別れるのは寂しいですが、今後はひとりの精神科医師として高知県の精神科医療のために尽くして行きたいと考えています。

退任の



副院長 西岡 豊

今年3月をもちまして定年退職の日を迎え、副院長職を退任することになりましたので、一言、ご挨拶を申し上げます。平成3年に高知医療センター統合以前の高知県立中央病院に赴任して以来27年間という長い年月を当院で過ごせたのは、ひとえに同僚、上司に恵まれたこと、そして、地域の先生方をはじめ多くの方のご指導ご支援の賜物と大変に感謝しております。

その間、診療科としては、消化器外科医として、主に消化管疾患に対する内視鏡外科手術を中心に、その黎明期より関わらせていただきました。また、腎移植にも関わらせていただき、平成11年に高知で行われた日本で最初の脳死臓器移植にも立ち会う機会をいただきました。そして、平成17年の高知医療センターの開設当時は、病院の規模の大きさや、PFI事業等を中心とするその斬新的な取組みに感動しながらも、多くの緊急手術を含む消化器外科の診療に手一杯で、右往左往の状態でご過ごしてまいりました。

そして、平成20年より地域医療センター長を、平成27年には副院長を拝命いたしました。地域医療センター長の職は、昨年までの8年間を従事させていただきましたが、今までに経験したことの無い分野で、最初は、どういう方向に進むべきか苦慮しましたが、職員の皆さまにも助けられて、「顔の見える地域医療連携」を目指して尽力してまいりました。地域の先生方のご協力のおかげもあり、当時はまだ当院が微力であった地域医療連

携がより密接なものに確立されたのではないかと自負しております。その他、診療業務以外では、ベッドコントロール、外来業務の調整と管理、医療関連機器等の整備調整等で、吉川病院長をサポートしてまいりました。特に、ベッドコントロールに関しましては、在院日数短縮を意識しながらも、当院の使命でもある救急患者の受入も考慮し、一定の余裕をもったベッドコントロールを考慮してまいりましたが、満床等で、地域の先生方にご迷惑をおかけしたこともありました。

今後、これらの業務が、少しでも当院の診療機能の充実に寄与されて、これからも高知医療センターが、高知の医療を支える基幹病院としてますます発展していくことを心から願っています。そして皆さまには、今後も高知医療センターにたいして変わらぬご支援ご指導を賜りますようお願いして退任のご挨拶とさせていただきます。

本当に長い間
ありがとうございました。



ご挨拶

医療技術局長 西川 智彦



この度、高知医療センター医療技術局長を退任するにあたりご挨拶を申し上げます。

まず、日ごろから医療技術局に対して多大なご指導、ご支援をいただいた皆さま方に厚く御礼申し上げます。

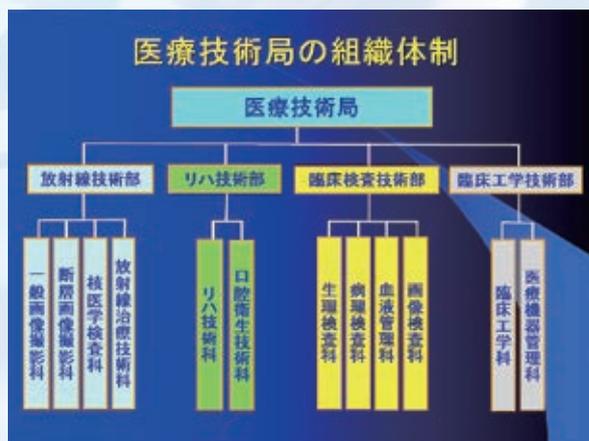
私が、診療放射線技師として勤務したのは、昭和54年4月に四国で初めて全身用CT撮影装置が導入されたことに伴う増員で高知県立中央病院に採用されました。この当時に1億円をかけて導入されたCTに関する県民の注目度がすごかったことが記憶に残っています。“人間の体を輪切りして見える機械が中央病院に入ったと”放射線科には、多くの電話や問い合わせが殺到し対応していたことが思い出されます。この時代、コンピュータはSFの映画でしか見たことがなく、私にとって初めて中央病院で見た光景はCT室で冷房のすごく効いた部屋に、大型冷蔵庫くらいのもので3台、昔でいう電算機に二つの大きな円形のリール(磁気テープ)が、左右に回転している光景が記憶に残っています。その当時のCTは頭部1枚の断層像を撮影するの

に40秒、1枚の断層画像をブラウン管に表示するのに3分くらいかかっていたと思います。現在は0.数秒で可能になり医療機器および科学技術の発展は、振り返ると目を見張るものばかりでした。この時代の流れを経験したことは凄いことだったと感じています。この間、良き上司に恵まれ、転勤もなく中央病院でお世話になりました。

平成17年3月に、日本で初めての県立病院と市立病院の統合、6局の組織体制でスタートした高知医療センターに移り最初の勤務は医療技術局の核医学検査を担当し、SPECT-CT装置の導入などに関わり四国でも最新鋭の装置で検査を行うこともできました。昨年、実現したのですがPET装置の導入を強く希望していたのもこのころでした。

そして平成24年4月に医療技術局次長、平成26年4月にこの医療技術局局長を命ぜられ、医療技術局内の職種の違う医療スタッフの束ね役として、また6局体制の中で、この病院を支える1本の柱としての責任を感じ頑張ってきました。その間、口腔衛生技術科、臨床工学科、医療機器管理科などの専門科を立上げ、また医療安全、医療経営、医療機器の選定および保守、新がんセンター、患者支援センターなどにも関わることができたこと、そして皆さまと一緒にこの病院で働くことができたことが、私にとって大きな誇りであり、ただただ感謝するのみです。

最後に、高知医療センターと医療技術局の益々のご発展を祈念し、退任の挨拶とさせていただきます。長い間、本当にありがとうございました。



退任のご挨拶



薬剤局長
宮本 典文

定年となりました。大学を卒業後、病院薬剤師として昭和病院(尼崎市)、県立宿毛病院、県立中央病院、高知医療センターと4つの病院で勤務してまいりましたが、実感がありません。少し寂しいような、ほっとしたような、まだ権力の座(?)にしがみ付いていたような(笑)、申し訳ないような(後述)、複雑な気持ちです。

県に採用され、赴任地である宿毛へ挨拶に行った折、あまりの遠さに辟易していた上に、宿毛病院の先輩薬剤師(後の医療センター隅田薬剤部長)にクソボロ(下品で失礼)の軽自動車までバス停まで送っていただき、暗澹たる気持ちで帰路についたのを、この前のことのように思い出します。宿毛ではレジャーやスポーツ等に興じ、初めて購入した車であちこち出かけ青春を謳歌しました。また、現県会議員の坂本茂雄さんと出会い、人権の大切さ、人のため何事にも精一杯取り組む人こそ尊敬できる(怠け者の自分には教訓となっていないが)ことを学び、組合運動を通して大勢の人前で話ができるスキルを身につけることができました(できた様な気がするだけ?)。

中央病院赴任当時、薬剤師は薬品供給が主な仕事でした。昭和63年に医療法上初めて医療の担い手として薬剤師が明記され、病棟業務に診療報酬上の加算が付与されました。これを受けて医局会にて、偉そうに薬剤師の病棟業務とはと題して講釈を垂れたことは、今思えばと冷や汗ものです。しかし、高橋功先生や依光聖一先生、西村誠明先生、辻晃仁先生、菅野尚先生など多数の先生方の理解や

協力、ご指導を得て、早期から(県内では大川筋の某病院に次いで)病棟業務を開始し拡大することができました。初めての患者さんは悪性リンパ腫でした。リンフォーマ?マリグナンシー?マルク?ワイセ?ナディア?.....?アニメのキャラクターかい?といった知識レベルです。そんな中、口内炎のうがいを提案、調製し、患者さんから、「少し良いみたい」と言っていた時のことは忘れることができません。また糖尿病教室を開始するにあたり、先生方や看護師さん等と議論を重ねパネルやパンフレットを作成したこと(現在でも改訂を重ね当院で使用されています)、他病院の薬剤師と勉強会に取り組んだこともチーム医療黎明期の思い出です。この時の経験が、自分の薬剤師としての(脆い)土台を形成したと思っています。

さて、(医療センターでの取り組みはホームページを参照していただき)薬剤局長として1年務め、がんサポートセンター、患者支援センターの開設に対し薬剤師の配置を行いました。一方それ以外では、ほとんど前進せず、欠員の解消もできず、反省しか思い浮かびません。そして来年度は、診療報酬改定、機能評価、懸案の病棟薬剤業務施行等、薬剤局にとっても大きな仕事が控えています。それらを放って退職するのを心苦しく思っています。幸い薬剤局には優秀な人材が多数在籍しており、いずれ“春が来る”いや“盛夏を呼び込んでくれる”と信じています。

最後に、高知医療センター並びに薬剤局の発展と職員の皆さまのご多幸とご健康を祈願し、挨拶とさせていただきます。



医療法人仁栄会 島津病院

〒780-0066
 高知市比島町4丁目6番22号
 TEL：088-823-2285
 FAX：088-824-2363
 H P：http://www.shimazuhp.jp/

【診療科】

内科、人工透析内科、糖尿病内科、リウマチ科、腎臓内科、消化器内科、循環器内科、外科、人工透析外科、整形外科、泌尿器科、消化器外科、脳神経外科、肛門外科、皮膚科、リハビリテーション科

【関連施設】

医療法人仁栄会 島津クリニック、医療法人仁栄会 島津クリニック比島、医療法人成仁会 快聖クリニック、医療法人島津会 幡多病院

【併設施設】

グループホームやすらぎ、通所リハビリテーション、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護しおた、特定施設みやびの里、小規模多機能型居宅介護ひじま、住宅型有料老人ホームひじま、グループホームつくしの里、グループホームかがやき、小規模多機能型居宅介護おがた、高齢者専用賃貸住宅くろしお

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	△
14:00～18:00	●	●	●	●	●	△	△

休診日：日曜日・祭日

医療法人仁栄会 島津病院は昭和48年3月8日に開院。平成25年6月16日に公財日本医療機能評価機構認定を取得。一般病床69床を有します。

1973年四国初の人工透析センターとして開院し、人工透析を基本に、腎臓内科や糖尿病内科など、透析にまつわる医療に力を入れています。



(島：島津病院、高：高知医療センター)

高：貴院が現在力を入れていることを具体的にお聞かせください。

島：高齢化する透析患者さんの加齢に伴う心身の活力が低下するフレイルへの対策にチーム医療で取り組んでいます。早い時期にフレイルを見つけ栄養科および運動療法の両面から介入することで、ADLの維持やQOLの向上へ繋げています。

高：地域との連携や他医療機関との連携について貴院での取り組みなどお聞かせください。

島：CKD病診連携に伴う他医療機関との連携。高齢者に対する居宅、訪問事業や介護医療における地域との連携に取り組んでいます。



高：今後、貴院が目指されていくことなどをお聞かせください。

島：介護の必要な高齢透析患者の在宅生活を支えていくことがこれからの大きな使命と考えています。

高：最後に高知医療センターとの連携についていかがですか？

島：迅速対応して頂いています。

ご多忙の中、取材にご協力いただきありがとうございました。

月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
3月	1	木	平成29年度 高知医療センターワイドコラボセミナー (参加費無料・申込不要)			
			内容	エンドオブライフ・ケアの意思決定支援について	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	18:00～20:00	対象	医療関係者
	講師 東京大学大学院 人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座 特任教授 会田 薫子 氏 お問合せ: 高知医療センター 事務局 経営企画課 江口 TEL:088(837)3000(代)					
	1	木	高知県女性医学セミナー (参加費無料・申込不要) ※3階無料駐車場あり			
			内容	女性医学最前線～進化する女性ホルモン製剤の投与方法～	場所	ちより街テラス 3階 ちよテラホール(高知市知寄町2丁目1-37)
			時間	19:00～20:30	対象	医療関係者
	講師 愛知医科大学 産婦人科学講座 主任教授 若槻 明彦 氏 お問合せ: 高知医療センター 総合周産期母子医療センター 林 和俊 TEL:088(837)3000(代)					
	8	木	第49回 地域医療連携研修会 (参加費無料・申込不要)			
			内容	めまいは寝ても治らない2 一自宅のできるめまい改善体操	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
時間			14:00～15:30	対象	医療関係者・一般	
講師 横浜市立みなと赤十字病院 めまい・平衡神経科 部長 新井 基洋 氏 お問合せ: 高知医療センター 地域医療連携室 門田・松本 TEL:088(837)3000(代)						
9	金	神経内視鏡手術セミナー (参加費無料・申込不要)				
		内容	一般演題: 当院における神経内視鏡手術の検討-症例提示- 特別講演: 脳腫瘍に対する内視鏡手術	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ	
		時間	18:00～19:00	対象	医療関係者	
講師 一般演題: 高知医療センター 脳神経外科 津野 隆哉 特別講演: 名古屋第二赤十字病院 脳神経外科 副部長 渡邊 督 氏 お問合せ: 高知医療センター 脳神経外科 太田 剛史 TEL:088(837)3000(代)						
15	木	高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修 (参加費無料・申込要) ※申込期限: 3月5日(月)				
		内容	成人BLS/AED研修	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室	
		時間	13:00～16:00	対象	看護師(3名)	
講師 高知医療センター BLSインストラクター 参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ: 高知医療センター 看護局 教育担当(野中、三浦、藤本) TEL:088(837)3000(代)						
17	土	平成29年度 高知呼吸器カンファレンス (参加費無料・申込不要)				
		内容	I: 症例から学ぶ⑥ -CT発見肺癌や発展する画像技術とともに診療の向上を目指す- II: [特別講演] 最新の肺がんCT検診 -各種の基準改訂や実臨床医へのメッセージ-	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	16:30～18:30	対象	医療関係者	
講師 I: 高知医療センター 呼吸器外科 岡本 卓 II: J A 長野厚生連 浅間南麓こもろ医療センター 放射線科部長・臨床画像センター長 丸山 雄一郎 氏 お問合せ: 高知医療センター 呼吸器外科 岡本 卓 TEL:088(837)3000(代)						
18	日	高新・高知医療センターがんセミナー2017 (参加費要・申込要)				
		内容	がんがんとがん治療について 一放射線治療を中心に	場所	高新文化教室(RKC高知放送南館3階37号室)	
		時間	10:30～12:00	対象	一般(40名)	
講師 高知医療センター がんセンター長 西岡 明人 お問合せ・お申込み: 高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回						
24	土	高知医療再生機構 小児科専門医養成支援事業 (参加費無料・申込不要)				
		内容	AMR時代到来! 小児外来における抗菌薬のうまい使い方	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	15:00～16:15	対象	医療関係者	
講師 兵庫県立こども病院 小児感染症科 笠井 正志 氏 お問合せ: 高知医療センター 小児科 西内 律雄 TEL:088(837)3000(代)						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

編集後記

もう一度表紙をご覧ください。

身内が褒めるのもなんですが、退任する当院病院幹部職員の皆さんの笑顔のなんと素敵なこと!どのようなハートで患者さんに接し、職員と向き合ってきたのか、すぐ分かりますね。私自身、こうしたリーダーの元で働いたことを嬉しく、誇らしく思います。

読者の皆さまの医療機関等でも、別れと出会いの季節が訪れていることと思います。同時に介護・医療同時改定という強風の真っ只中にあり、別れを惜しむ時は短いのもかもしれません。当院では島田病院長の下で4月に新体制がスタートします。これまで以上の強い地域連携で、共に強風に風立ち向かって行ければと思います。(地域医療連携室 宇井)



平成30年3月1日発行
にじ3月号(第149号)
毎月発行
編集者: 広報委員会
発行者: 吉川 清志
印刷: 株式会社 高陽堂印刷

発行元:
高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp